

非難の〈ターゲット〉と 語りの〈宛て先〉

—否定的評価をめぐる相互行為のアドレス性—

立命館大学
岡本 雅史・Marina B. Asad

1

はじめに

- 相互行為場面における、他者に対する**否定的評価**の表明
 - ✦ 誰かに対する**不満**を表明したり、**アイロニー**で相手を皮肉る
 - ✦ その場にはいない第三者の**悪口**を公言する
- **アドレス性**の観点に基づく否定的評価の発話や談話の区別
 - ✦ その直接の受け手（=宛て先）が**非難や不満のターゲット**となる場合
 - ✦ その場にはいない**第三者をターゲット**として別の受け手に表明される場合
- 本発表では、こうした**重層的なアドレス性**がどのように否定的評価をめぐる**相互行為を構造化**するのかについて議論する
 - ✦ (1) **クローズドコミュニケーション**
 - ✓ 日常会話における**直接的不満表明**と**間接的不満表明**の談話事例
 - ✦ (2) **オープンコミュニケーション**
 - ✓ プロの漫才対話における「**悪口**」事例

2

日常会話における《不満表明》 —クローズドコミュニケーションのアドレス性—

3

不満表明とは

- 先行研究の定義
 - ✦ Complaint is the expression of negative feelings about a specific issue. (Drew & Holt, 1988)
 - ✦ An expression of dissatisfaction from one individual (A) to another (B) regarding behavior on the part of B that A perceives as unsatisfactory. (Laforest, 2002)
- 本研究における「不満表明」の定義
 - ✦ 会話参加者が対話相手に表明する、ある**ターゲット**又はある**事態**に対する自身の**否定的スタンス・否定的評価**の言語行為

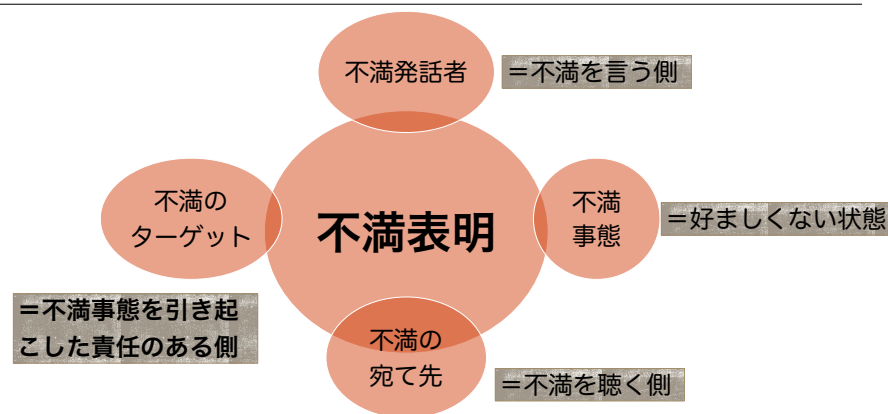
4

不満表明の分類

- ・ 《直接的不満表明》 (Direct Complaint) (Boxer, 1993; 2002: 50)
 - ◆ 不満の〈ターゲット〉 = 不満発話の〈宛て先〉
 - ◆ 対話相手によって引き起こされた好ましくない状況に対する反応であると同時に、対話相手に謝罪、責任承認または改善などを期待する言語行為 (李, 2006)
- ・ 《間接的不満表明》 (Indirect Complaint (Boxer, 1993)
 - ◆ Third party complaint (Traverso, 2009; Heinemann, 2009)
 - ◆ 不満の〈ターゲット〉 = その場にはいない第三者
 - ◆ 望ましくない事態について嘆くことで、相手に同調してもらい、自分の状況や気持ちを理解し共感してもらうことを求める言語行為 (釜田, 2017)

5

不満表明を構成する要素



6

不満表明に関する先行研究

- I. 不満表明の〈ターゲット〉 = 〈宛て先〉 《直接的不満表明》
 - ◆ Laforest (2002), Monzoni (2008)
 - ◆ 不満の〈ターゲット〉は、自分に向けられた非難を拒否することがほとんどである (Laforest, 2002)
- II. 不満表明の〈ターゲット〉 ≠ 〈宛て先〉 《間接的不満表明》
 - ◆ Drew (1998), Drew & Walker (2009), Traverso (2009), Haakana (2007)
 - ◆ Traverso (2009): 「間接的不満表明」は、必ずしも円滑に行われるとは限らず、しばしば愚痴内容の事実認定が否定される可能性が存在し、この時、対話相手に交渉 (negotiation) したり、または話題変更が行われたりすることも見られたため、「間接的不満表明」の相互行為は無秩序な行為だと主張
- III. 不満表明の〈ターゲット〉 is related to 〈宛て先〉 《間接的不満表明》
 - ◆ Ruusuvuori & Lindfors (2009), 串田他 (2022)
 - ◆ 〈宛て先〉の同業者に対する不満は、その内容が間接的には〈宛て先〉にも及ぶ面があると聞かれる点で「危険」(Sacks, 1992: 599)な不満である。それは、受け手からの共感を得ることがとりわけ難しい性質を持つ

7

先行研究のまとめ

- ・ これまでの研究では、聞き手の「**参与枠組み (participation framework) (Goffman, 1974; 1981)**」と会話参与者間の人間関係や場面設定をもとに、聞き手が不満発話者に対してどのように反応するのかを分析したうえで、不満談話構造の特徴が明らかとなった
- ・ (BUT) 聞き手の同意と不同意の行動の背景には「**参与枠組み**」よりも、**会話参与者間で共通基盤が確立されているかどうか**という現象の方が大きく関わっているのではないかと考えられる

8

研究課題

・「不満表明」を行う目的

(1) 「相手が与害行為に**気づいていない**」状況のとき→気づかせたい(山岡ら, 2010:185)

(i) Lack of attention

(2) 「相手の謝罪が**足りない**」状況のとき→相手の謝罪を引き出したい (ibid.:185)

(ii) Inequivalent evaluation

→..不満発話者は「対話相手の不満状況に対する**注意・評価**が自分自身の**注意・評価と一致しない**」不均衡な状況のとき、それを**共通させたい**意図がある

+ (3) **そもそも不満事態や不満のターゲットに関する情報を共有する必要があるのでは?**

(iii) Lack of mutual information (Asad, 2022)

=3レベルの「共通基盤化」

9

共通基盤化とは

・共通基盤化 (Grounding)

♦ “To ground a thing..., is to establish it as part of common ground well enough for current purposes.” (Clark, 1996: 221)

➔ 「話し手が提示したある発話が、現在の会話の目的に十分かなうように聞き手にとって理解でき、最終的に話し手と聞き手の共通基盤 (common ground) の一部として確立した場合」をいう (田中, 2019)

・Clark (1996) の共通基盤の構築過程の4レベル

(0) A and B failing to establish any connection yet

(1) A getting B's attention

(2) B perceiving A's utterance correctly

(3) B understanding what A meant

10

研究目的

・リサーチクエスション

♦ RQ1: **不満談話シーケンス**は、どのようにして会話参加者間の共通基盤の構築過程 (=共通基盤化) によって**影響される**のか?

♦ RQ2: 「不満表明」の両参加者の行為の**〈宛て先〉に対する志向性の違い**により、**不満談話シーケンスの構造**がどのように異なるのか?

11

The AIE Model of common ground

共通基盤化の構造

Ground Level of Evaluation (E)

(E) 不満事態・ターゲットに対する**評価**を示す第三段階

【共通評価】

Ground Level of Information (I)

(I) 不満事態・ターゲットに関する**情報**を要求・共有する第二段階

【共有知識】

Ground Level of Attention (A)

(A) コミュニケーション構築過程の**初期段階** (Clark and Brennen, 1991:146)

【共同注意】

12

分析データ

日本語の日常会話における

- 「直接的不満表明」の対話データ→1例
- 「間接的不満表明」の対話データ→1例

→いずれも『日本語日常会話コーパス(CEJC)』(小磯他, 2022)から抽出

《直接的不満表明》

データ(1) K002-007 自宅で娘と娘のスケジュールを確認 (00:19:10~00:22:28)

《間接的不満表明》

データ(2) K001-011 自宅で元同僚である友人と電話で旅行の相談 (00:17:46~00:21:27)

◎ 《直接的不満表明》の分析

データ(1): [CEJC K002-007] 親子会話

- M: さらに: こんなにまだ一カ月以上先の話しじゃない? **1-2: 共同注意の確立**
- D: と うん
- M: それでキャンセル料がかかる: ホテルなんか押さえちゃ駄目だよ. **3: Mの評価1**
- D: うん 別途相談(チャットしながら独り言)
- M: それもお母さんに相談してから予約入れるべきだよ **5: Mの評価2**
- D: うん (19.88)
- D: あ、でも(.) うん **10: Dが反論**
- M: だって(0.396)キャンセルって一番さリスク一じゃない? **12: Mの評価1の正当化(情報共有)**
- D: うん (中略)

- D: いやまあま〇〇(娘の友達の名前)しっかりしてる子なんだけど↑す↑さ↑く **21: Dの評価1**
- M: うん
- D: でもあの: この前は その(0.321(0.12)あれだったのよ(.)自習続きだ **23: Dの評価1の正当化(情報共有)**
- M: まあ: >それは理由の になるかどとだけど< **29: Mの評価1**
- D: まあね
- M: まあどんな理由のもとにも(0.196)遅れるってゆうことはその人の中の時間の感覚とか(0.529)あのきちんとしてないってゆうこと[だからさ
- D: うん
- M: で(0.24)まあ(0.206)一例 それは一つの例だけど
- D: うん
- M: どっちにしても予約をそんなに **29: Mの評価1**
- D: でもほら どんどん高 **30: Dの評価2の正当化(情報共有)**

(続き) [CEJC K002-007] 親子会話

- M: 高くなるけど。お母さんに聞くべきだったと思うよ。前の日からお母さんいといはゆってないからね。泊まるのは **31: Mの評価2**
- M: [オッケー出していないからお母さんにまず(0.668)宿泊がオッケーかってゆうのを確認を取るべきだから
- D: [うん うん
- M: でイッ 泊まれない時は泊まれないから(0.13)お母さんオッケー出していないからね
- D: うん うん
- M: そんなに簡単にお泊まりはお母さんオッケーは出さないから [お友達と
- D: [はー(あくび) うん
- M: 帰ってこれるんだったらその日(ジュウ中)に帰ってン(.)前日泊まる意味がないからお母さんの話して(0.2)今の話して聞くと
- D: うん
- M: その前日は泊まる(イ)必要ないと思います。
- D: うん

- M: ましてや〇〇(娘の名前)がいっぱいお金があるんだったら別だけど
- M: お母さんにもお金をたくさん借りてたりとか(0.204)しててそれを全部まず **43: Mの評価3**
- D: うん
- M: 清算したほうがいい先だと思う
- D: [一万円だけでしょ?] **46: 共有知識の確立**
- M: 一万円とか あの: (0.298)定期代
- D: うん うん
- M: でそれとえーと四五はもらってるけど、六七八はもらっていないからね? **49: Mの新規情報の共有**
- D: うん うん
- M: その その件もちゃんと(0.165)清算しなきゃいけないからね。
- M: ね、そういうのも大変なのに泊まってる場合じゃないんじゃないかなってお母さん思ってる **52: Mの評価3**
- D: うん
- M: まあまあそうゆうこともきちんできてれば別だけど

◎ 《間接的不満表明》の分析

データ(2): K001-011 園長先生に対する不満


- A: なんかさ:(0.163)この前さ:(1.167)民たところ行ったの **1-9: 共同注意の確立**
- B: うん
- A: その話[ししたっけ?
- B: [民営化になったとこってどう
- A: う [うん
- A: [えっと(〇〇Aが担当したことがあ
- B: あー。[(〇〇Aが担当したことがある
- A: [そう [行ったの。]
- B: [へー
- A: → す [ごいもうだめだ:と思って: hhh [うん
- A: → でもさ:やっぱり園長先生がさ:(1.125(0.446)ウェルカムじゃなくてさ **10: Aの評価**
- B: うん **12: Aの評価の正当化(情報共有)**
- B: (1.6)
- A: → 全[然
- B: [元あれなの== あっ、じゃなくて
- A: うん(0.60) 元(0.310) そう
- B: ワ

- A: 公立の(1.056)[園長先生だったんだけど: **19-24: 共有知識の確立**
- B: [なの? うん
- A: =なんかね:(0.203)そう(0.874)ちょっと[なんか、 [なの?]
- B: じゃないんだ=
- A: =そう:
- B: へー
- A: そう (0.04) でも一応お伺いを立てて:(0.277)行ったから:(0.456)まあそれはそれで:みたいな感じだったんだけど。 **38/40: Aの評価**
- B: うん うん うん
- A: ん
- A: でもなんか全然(1.899)もう (.hhh)
- B: うん
- A: 相手(0.3)なんだろう(0.4)相手をしてくれるってゆうかなんか対応してくれるわけじゃなかったんだ (中略)
- A: (0.96)
- A: ↑すごい[怖 怖いよ:]と思いつつ。
- B: [うーん] へー
- A: これはちょっともうなんか気軽に来ちゃいけないだなみたいなの。 **38/40: Aの評価**
- B: うん(.)すっか: うん うん
- A: そう

(* 44-71 行略: 不満の対象に関する個人情報のため)

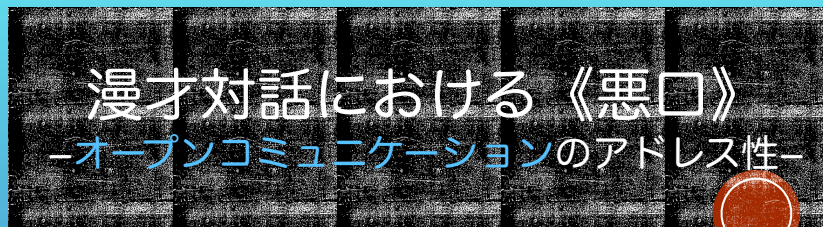
72	A	うわー いろんな人がいる:と思っ(h)て。
73	B	うーん。
74	A	ね(.)そりゃ:合わない人も出てくるよね↑しょうがないよね(hhh)
75	B	うん しょうがないよね(.)もう
76	A	って慰めるしかない。(hhh)
77	B	うん(.) そうだよ(hhh) 割り切るしかないよね.もう本当
78	A	ね:(0.2) 本当
79	B	戦うと疲れるから=
80	A	=そう もうほんと疲れる:
81	B	うん
82	A	なんかどうやったら無になれるかってゆうのに(.)↑すこいなんか(.)気を向けている
83	A	うーん(hhhhhh)
84	A	何も感じない(h ように)hhh
85	B	うーん(hhhhhh) 強靱な心を(h 鍛え上げ)hhh
86	A	hhhhh そう
87	A	何言われても ああ そうですね (h みたいなの)
88	A	(X # # # # #)
89	A	hhhhh
90	B	hhhhh
91	A	あー(h) あー(h) <やだね>
92	B	ね(.)そっか. せっかく元氣もらいに行ったのにね
93	A	そう ね hhh
94	B	うーん。
95	A	いや。

75:
共通評価の確立
↓
共感的対話の継続



結果と考察

- A1: 不満談話シーケンスは、会話参与者間の**共通基盤化の過程**によって構成される
- A2: 「不満表明」の両者の行為の**〈宛て先〉に対する志向性の違い**により、**不満談話シーケンスの構造**は以下のように対比される
 - ◆ **共通点**
 - ✓ いずれの場合でも会話参与者間で**共通評価の構築**が目指されている
 - ✓ 会話参与者間で共通評価を実現させるために、**共同注意と共有知識**の共通基盤化の達成が必要!
 - ◆ **相違点**
 - ✓ 《直接的不満表明》→不満発話者の**自己中心性 (egocentrism)**が高い (Kecskes, 2008)
 - ➡つまり、不満のターゲットである**不満表明の〈宛て先〉の評価**を理解しようとしな
 - ✓ 《間接的不満表明》→不満表明の〈宛て先〉との共通評価を確立後も**共感的対話を継続**することで**〈宛て先〉の当事者化**を指向する



オープンコミュニケーション

- オープンコミュニケーションとは？
 - ◆ 通常の二者間の「閉じた」対話とは異なり、対話の場から見て外部にあるオーディエンスに向けられる「開かれた」対話 (岡本ら, 2008)
 - ◆ 漫才対話もオープンコミュニケーションの一つ
 - ✓ 表面的には閉じられた対話であるが、実際には観客や視聴者に向けて開かれている (他に、料理番組やニュース番組、通販番組など)
 - ◆ 新たな定義 = 「**コミュニケーションを見せるコミュニケーション**」



間接的伝達としての外部指向性(1)

発話の持つ二重の指向性

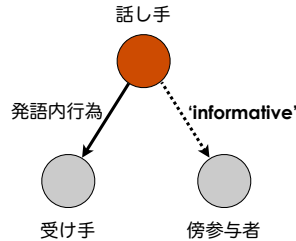
- 告知 (informative) (Clark & Carlson, 1982)
- 特定の受け手に対してある発話内行為を遂行する際に、参加者全員にその発話内行為を知らせる発話内行為

内部指向性と外部指向性

- 内部指向性：直接的な受け手への情報伝達
- 外部指向性：informativeによって傍参加者に理解可能なものとして伝達

外部指向性の前景化

- (両親に伴われた赤ん坊に)「君はお父さんにそっくりねえ」
- (夫のいる前で飼う猫に)「君のご主人はどうしてこんなに帰ってくるのが遅いんでしょうね」(→当て擦り)

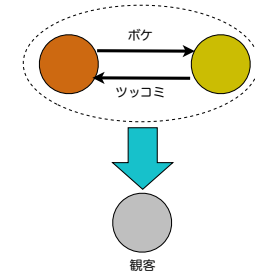


21

間接的伝達としての外部指向性(2)

相互行為的な外部指向性の実現

- 漫才対話のボケとツッコミ
 - ✓ 一人の発話では不可能な外部指向性
 - ✓ ボケの意味を観客に伝えるツッコミの役割 (金水 1992)
- 相互行為的外部指向性
- 漫才は二者間の対話という相互行為によって間接的に情報や情動を伝える!



【ポイント】漫才対話の相互行為を外部の〈受け手〉に見せる (showing) という構造は、読者に対する小説内での会話表現と共通するのでは？

22

関連研究(1)：フィクションにおける対話の役割

ナラティブの二つのモード (Jahn, 2021[2005] : 66)

- showing mode of presentation : 読者を作中の出来事の目撃者にする → OC的特徴
- telling mode of presentation : 語り手が行動の呈示や記述、キャラクター化、視点配置を調節

フィクションにおける対話の役割 (Locher & Jucker, 2021 : 128)

プロット展開に影響を与える台詞のやり取りの表現 (Representation of speech exchange with plot consequences)

- ✓ プロット進行のための登場人物の発話交換の表現行為 (enactment)
- ✓ 評価と解釈の調整のための対話利用
- ✓ 直接性、エンゲージメント、感情的関与 (emotional involvement)

キャラクター化 (Characterisation)

- ✓ 発話の方法や様態、行為を通じた登場人物のキャラクター化
- ✓ 語りのコンテキストの呈示 (Presentation of narrative context)
- ✓ 場所・登場人物の名前・背景情報の追加
- ✓ 主要行為のリアルな言語的コンテキストの呈示

文体的機能とオーディエンスへの訴求 (Stylistic function and audience appeal)

- ✓ 言語の詩的使用 (レトリック、押韻、韻律)
- ✓ ユーモア、アイロニー
- ✓ 特定のオーディエンスに訴える言語スタイル

→ 漫才対話でも観察可能

23

関連研究(2)：漫才のツッコミの定型句の分類

ボケへの応答の定型句 (日高 2017 : 405)

打ち消し系	評価系
<ul style="list-style-type: none"> * あほ類：常識に反する言動の打ち消し * むちゃ類：理不尽な言動の打ち消し * ええかげん類：過剰に繰り返されるボケの打ち消し 	<ul style="list-style-type: none"> * 頼りない類：無知な言動に対する軽い蔑み * よう言わんわ：奇想天外な言動に対する呆れ * なんでやねん：想定される「正解」からずれた言動に対する強い戸惑い

- 日高の指摘によれば、打ち消し系の「あほ類」が全ての時代で用いられ、「むちゃ類」が創生期 (1930~50年代) のコンビに偏って使用されていたり、評価系の「頼りない類」や「よう言わんわ」が発展期 (1980年代) 以降の現代のコンビではほとんど用いられていない一方、「なんでやねん」は創生期には見当たらない

→ ∴ ツッコミの定型句は、ボケ役の言動に対する「打ち消し」を行うか、それを「評価」するか、というツッコミ役自身の発話行為として分類することが可能

24

おわりに

🌀否定的評価をめぐる相互行為のアドレス性から見たクローズド vs. オープン

♦クローズドコミュニケーションである日常会話の不満表明

- ✓ 直接的不満表明：非難の〈ターゲット〉が発話の〈宛て先〉と一致しているため、一貫して**自己中心的な評価の強制に指向**
- ✓ 間接的不満表明：非難の〈ターゲット〉が発話の〈宛て先〉と異なるため、**不満事態の当事者**として対話相手を引き込む指向性

♦オープンコミュニケーションである漫才対話の「悪口」

- ✓ ツッコミの役割とコンビとしてのスタンスによって多様化
 - 〈ターゲット〉の**攻撃者 vs. 擁護者**
 - 相方への否定的評価を通じて**間接的にターゲットへの非難を強化**
- ✓ 外部のオーディエンスの多重の役割
 - 演者の相互行為の**目撃者**
 - 否定的評価に対する**態度決定**

➡評価対立場面でこそ浮き彫りになる参加者ごとのスタンスの動的なアライメント

29

参考文献(1/2)

- 🌀Asad, M. B. 2022. 日本語の不満談話シーケンスの開始部における共通基盤化—ロールプレイデータと日常会話データの比較から—, 『立命館文学』, **678**, 912-898.
- 🌀Boxer, D. 1993. Social Distance and Speech Behavior: The Case of Indirect Complaints. *Journal of Pragmatics*, **19**(2), 103-125.
- 🌀Clark, H. H. 1996. *Using Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 🌀Clark, H. and Carlson, T. B. 1982. Hearers and speech acts, *Language*, **58**, 332-373.
- 🌀Drew, P. 1998. Complaints about Transgressions and Misconduct. *Research on Language and Social Interaction*, **31**, 295-325.
- 🌀Drew, P., and Holt, E. 1988. Complainable Matters: The Use of Idiomatic Expressions in Making Complaints. *Social Problems*, **35**(4), 398-417.
- 🌀Drew, P. and Walker, T. 2009. Going too far: Complaining, Escalating and Disaffiliation. *Journal of Pragmatics*, **41**(12), 2400-2414.
- 🌀Goffman, E. 1976. Replies and responses. *Language in Society*, **5**(3), 257-313.
- 🌀Hanae Koiso, Haruka Amatani, Yasuharu Den, Yuriko Iseki, Yuichi Ishimoto, Wakako Kashino, Yoshiko Kawabata, Ken'ya Nishikawa, Yayoi Tanaka, Yuka Watanabe, and Yasuyuki Usuda. 2022. Design and Evaluation of the Corpus of Everyday Japanese Conversation. *Proceedings of LREC 2022*.
- 🌀Heinemann, N. D. 2009. Participation and Exclusion in Third Party Complaints. *Journal of Pragmatics*, **41**(12), 2435-2451.
- 🌀日高水穂. 2017. 漫才の賢愚二役の掛け合いの変容：ボケへの応答の定型句をめぐって, 『國文學』, **101**, 416-399. 関西大学.
- 🌀Jahn, M. 2021[2015]. *Narratology: A Guide to the Theory of Narrative*, English Department, University of Cologne. [<https://www.uni-koeln.de/~ame02/pppn.pdf>]

30

参考文献(2/2)

- 🌀Keeskes, I. 2008. Dueling Contexts: A dynamic Model of Meaning. *Journal of Pragmatics*, **40**(3), 385-406.
- 🌀金水敏. 1992. ボケとツッコミ—語用論における漫才の会話の分析, 『上方の文化 上方ことばの今昔』, 大阪女子大学国文学研究室(編), 大阪: 和泉書院.
- 🌀Laforest, M. 2002. Scenes of Family Life: Complaining in Everyday Conversations. *Journal of Pragmatics*, **34**, 1595-1620.
- 🌀Laforest, M. 2009. Complaining in front of a Witness: Aspects of Blaming others for their behavior in Multi-party Family Interactions. *Journal of Pragmatics*, **41**(12), 2452-2464.
- 🌀李善姬. 2006. 日韓の不満表明に関する一考察—日本人学生と韓国人学生を比較して—, 『社会言語科学』, **8**(2), 53-64.
- 🌀Locher, M. A., and Jucker, A. H. 2021. *The Pragmatics of Fiction: Literature, Stage and Screen Discourse*, Edinburgh: Edinburgh University Press.
- 🌀Monzoni, C. M. 2008. Introducing direct complaints through questions: the interactional achievement of pre-sequences. *Discourse Studies*, **10**(1), 73-87.
- 🌀岡本雅史. 2018. 聞き手行動が孕む二重の他者指向性—漫才のツッコミから見る聞き手行動研究の射程, 村田和代(編)『聞き手行動のコミュニケーション学』, 59-88, 東京: ひつじ書房.
- 🌀岡本雅史, 大庭真人, 榎本美香, 飯田仁. 2008. 対話型教示エージェントモデル構築に向けた漫才対話のマルチモーダル分析, 『知能と情報』, **20**(4), 526-539.
- 🌀Ruusuvoori, J., and Lindfors, P. 2009. Complaining about Previous Treatment in Health Care settings. *Journal of pragmatics*, **41**, 2415-2434.
- 🌀Traverso, V. 2009. The Dilemmas of Third-party Complaints in Conversation between Friends. *Journal of Pragmatics*, **41**(12), 2385-2399.
- 🌀山岡政紀・牧原功・小野正樹. 2010. 『コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門』, 東京: 明治書院.

31